

令和2年 年頭のご挨拶

兵庫県山岳連盟会長 古賀 秀年

新年明けまして

おめでとうございます

皆様におかれましては、幸多き新春をお迎えのこととお喜び申し上げます。

昨年は、天皇陛下が御退位され、新天皇陛下が御即位され、新たな元号に変わる特別な年に当たりました。

平成を振り返れば、環境・政治・経済・文化と国内外を問わず、実に様々な変化をとげた時代であり、兵庫県山岳連盟にとりましても激動とも

いえる時代でありました。

平成元年はアマダブラムやマッキンリーへ登山隊が出発する活発な幕開けとなりました。3年には、神戸登山研修所の室内にクライミング

ウォールを設置。同年、日本で初めてスポーツクライミングワールドカップが東京で開催され、4年には兵庫県山岳連盟主管で2回目のワールドカップを神戸で開催。

平成7年1月17日に発生した阪神淡路大震災では、災害出動した自衛隊の本部として

力された宮崎辰雄会長（元神戸市長）が逝去されました。後任に中島龍会長が就任され「人と人の和を大切に」を基本とした運営を展開され、18年10月の第61回国民体育大会「のじぎく兵庫国体」を成功へ導かれました。この大会では、天皇・皇后両陛下が初めて国体山岳競技のクライミング競技を観戦されました。

その2年後の大分国体から山岳競技は、クライミングに一本化され、リード・ボルダリングの2種目となりました。

中島会長は21年5月に日本山岳協会副会長に就任され活躍中の平成23年2月、皆に惜しまれながらご逝去されました。後任に中島会長が全幅の信頼を寄せられた中西研一会長

が就任され、登山界が激変するなか、4期8年、卓越した判断力で連盟の舵取りを担い、30年度に創立70周年事業を滞りなく終え会長を離任されました。

神戸登山研修所を提供し、災害復旧を支援しました。10年に連盟創立50周年を迎え、「ふるさと50山」を選定発表。カラコルム・ガッシャブルムI峰に速征隊を派遣し登頂に成功しました。12年2月に

は、神戸登山研修所の建設に尽力された。平成の時代を駆け足で振り返りましたが、皆様にとって「平成」はどんな時代でしたでしょうか。様々な思いを胸に、「令和」初めての正月を迎え、あらためて時代の流れを感じておられる方も多いのではないのでしょうか。

登山の多様化にも拍車がかかり、組織を嫌う未組織登山が益々増加の一途を辿っているようです。それとともに毎年遭難者数は右肩上がりに増加し、連盟が取り組む安全登山推進事業も限界があり、今までは全く違った対策を講じる必要に迫られています。

山岳連盟が多くの登山者のために有益な事業を展開し、登山者から信頼を得られる連盟であるよう、これからも努力する所存ですのでご協力の程お願いいたします。

さて、本年は、いよいよ東京五輪の開催年です。スポーツクライミング競技は、8月4日〜7日まで青海アールパンスポーツパークで開催されますが、スポーツクライミングの新たな出発点として、2024年のパリ五輪に繋がる、価値有る大会になりますよう応援をお願いします。

最後になりましたが、皆様方にとりまして良い年になりますことを祈念いたして年頭のご挨拶といたします。

この間、25年4月に日山協が公益法人となり、28年8月にスポーツクライミングが東京五輪追加種目に正式決定、同年8月11日より「山の日」が国民の祝日となり、翌年4月に日山協は日本山岳・スポーツクライミング協会に名称を変更するなど、正に激変の時代でした。



正月の明神岳（島添 誠 氏 撮影）